

ID 基礎力養成 Web サイトの初期検討

Conceptual Design of Web Site to Train Instructional Design Basic Skills

市川 尚^{*1} 井ノ上 憲司^{*2} 根本 淳子^{*2} 鈴木 克明^{*2}

Hisashi ICHIKAWA^{*1} Kenji INOUE^{*2} Junko NEMOTO^{*2} Katsuaki SUZUKI^{*2}

^{*1}岩手県立大学ソフトウェア情報学部

^{*1}Faculty of Software and Information Science, Iwate Prefectural University

^{*2}熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻

Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

＜あらまし＞ 本稿では、ID 基礎力を養成する Web サイトの基本コンセプトと機能要件の検討を行った。本サイトは ID に関する知識とスキルの両方の習得をめざし、厳選した ID 技法を用いて 1 つのレッスンをデザインする「基礎」と、多様な ID 技法を利用する「応用」の 2 つの柱で構成する。ツール等の既存の ID 関連リソースを活用し、レイヤーモデル等によって ID 技法を整理して提供する。

＜キーワード＞ インストラクショナルデザイン、レイヤーモデル、e ラーニング、ID 基礎力

1. はじめに

ID (インストラクショナルデザイン) の普及・理解を目的に、関連研究の整理やイベント情報の提供を行う ID ポータルサイト (2005) が整備されている。また、レイヤーモデル (鈴木 2006) に沿って ID 関連情報を整理するサイト構築の試み (今岡・鈴木 2009) も行われてきた。レイヤーモデル (表 1) は、教育 (主に e ラーニング) の質保証を 5 段階のレベルでとらえ、達成指標を明らかにし適切な ID 技法を応用するための枠組みである。これまでの取り組みでは日本における ID 関連情報を整理・提供してきたが、ID の知識やスキルを体系的に習得するための学習機会としては限定的となっている。

そこで、先行研究を発展させ、ID 基礎力の養成を行う Web サイトを構築する研究に着手した。最終的には一般公開を目指し、ID ポータルとの統合も視野にしている。本稿ではその手始めと

して、ID 基礎力養成 Web サイトの基本コンセプトと機能要件について検討した。

2. コンセプト

本サイトは ID 基礎力育成をテーマに、ID を「知る」(知識) だけでなく実際に「使いこなせる」(スキル) ことを目標とする。コンセプトを図 1 に示す。本研究における ID 基礎力には①「基礎」と②「応用」の 2 つの段階がある。①は「教材設計マニュアル」(鈴木 2000) の学習範囲である ID 技法を活用して簡単な 1 時間相当のレッスンをデザインできることを目指す (レイヤーのレベル 1 以上)。②は①を土台に、より広範な視点で多様な ID 技法を利用していく応用的な内容 (レイヤーの全レベル) を扱う。つまり、ID 初学者がユーザの場合は、基本的な狭い範囲の ID 技法に関わる知識・スキルをしっかり習得し、その後、より広範囲な ID 技法を扱えるようにする。

表 1 レイヤーモデル (鈴木克明 2006 から抜粋)

e ラーニングの質	達成指標 (例)	主な ID 技法
レベル 3: 学びたさ (魅力の要件)	継続的学習意欲, 没入感, 将来像とのつながりなど	ARCS モデル, 成人学習学など
レベル 2: 学びやすさ (学習効果の要件)	学習課題の特性に応じた学習環境, 共同体の学びあい作用など	9 教授事象, 構造化・系列化技法など
レベル 1: わかりやすさ (情報デザインの要件)	ユーザビリティ, 必要な情報への迅速で正確なアクセスなど	プロトタイピング, 形成的評価技法など
レベル 0: うそのなさ (SME 的要件)	内容の正確性, 取り扱い範囲の妥当性, 適切な著作権処理など	ニーズ分析, 課題分析, 内容分析など
レベル -1: いらつきのなさ (精神衛生上の要件)	アクセス環境, サービスの安定度, 安心感など	学習環境分析, メディア選択技法など

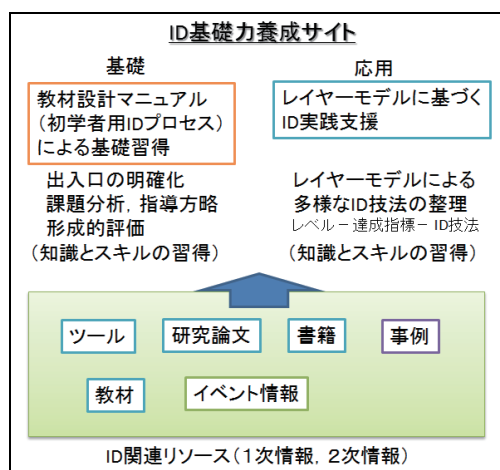


図1 ID基礎力養成サイトのコンセプト

学習形態は特にeラーニングに限定はしない。

また、本サイトでは既存のリソースを最大限に活用し、それらの1次情報あるいは2次情報を提供する。たとえば、研究論文、講演資料、教材、ツール、書籍などが対象となる。そのために既存リソースの調査および整理、必要あれば保有リソースの加工を行う。本サイトの対象ユーザは、IDを身につけたい人たちとなるが、その人たちから提供される教育の対象者や、サイトへの情報登録や更新等を行う管理者も想定される。

3. 機能要件

上記の基本コンセプトを踏まえ、本サイトの機能要件について検討した。

(1) **複数の入口**: IDプロセスの視点やレイヤーモデルの視点など、リソースへアクセスするための複数の入口を提供する。初学者用として単純なIDプロセスを、また応用段階としてレイヤーモデルを、整理の枠組みとして活用する。他にも高等教育のeラーニングの場合はOPTIMALモデル（鄭ほか 2008）とすることなども考えられる。ユーザ登録時（任意）に個人の状況を入力してもらい、それにあった入口を提供する。

(2) **独学支援**: 独学でユーザが知識とスキルの両面を習得できるようにする。知識面では技法等の紹介だけでなくドリル等による練習問題などを用意する。スキル面では成果物のセルフチェックシートの提供や、事例を提示し実際の活用に結びつけやすくなるように配慮する。独学だけでなく事例の登録やユーザ同士の相互チェックを含めたコミュニティ機能も設ける。

(3) **IDツールの提供**: ID技法を使いこなす（スキ

ル習得の）ために、ID技法の紹介とセットでツールを提供する。ツールは既存研究で作成されているチェックリストやフォームを活用する。ツール利用の理解と促進のために、利用事例などもあわせて提供する。また教材作成等の負担軽減のためにID自動化ツールなどの提供も行う。

(4) **レイヤーモデルの利用支援**: レイヤーの選択支援だけでなく、達成指標とID技法を対応づけ、達成指標の選択と同時に利用すべきID技法が把握できるようにする。また、評価指標は学習形態（eラーニング、一斉授業）などで変わってくると考えられるため、評価指標にフィルタリングや推薦機能を設け、ユーザの状況に応じた情報を提示できるようにする。

(5) **拡張性**: レイヤーモデルには評価指標やID技法の追加や改訂が今後行われていくことが予想される。そのため、拡張性を確保し、内容変更に対応できるものとする。Web上から変更等をすべて行えるようにする。

4. おわりに

本稿で検討した機能要件の妥当性を検証するために、プロトタイプとして鈴木（2000）の内容をレイヤーモデルに展開することから着手している。今後プロトタイプ評価を通して、機能要件を確定していく予定である。

付記: 本研究は科学研究費補助金基盤研究(B) (研究課題番号: 23300305) の助成を受けている。

参考文献

- IDポータルサイト（2005）<http://www2.gsis.kumamoto-u.ac.jp/~idportal/>
- 今岡義明, 鈴木克明（2009）eラーニング質保証レイヤーモデルのサイト設計と開発. 日本教育工学会 第25回全国大会発表論文集: 415-416
- 鈴木克明（2006）IDの視点で大学教育をデザインする鳥瞰図～eラーニングの質保証レイヤーモデルの提案. 日本教育工学会第22回講演論文集: 337-338
- 鈴木克明（2000）教材設計マニュアル. 北大路書房
- 鄭仁星, 久保田賢一, 鈴木克明（2008）最適モデルによるインストラクショナルデザイン. 東京電気大学出版局